

安東正之日記「槇の葉」抄(一)

加藤 泰信

「槇の葉」は、平成九年度、大分市在住の安東正氏より大分県先哲史料館に寄託された「安東正文書」の中心となる文書で、氏の先祖・安東正之の日記である。

安東氏は代々、日出藩の分家・立石領五〇〇〇石の用人として藩政に携わった。

正之は文政二年(一八一九)、現山香町立石に生まれる。毛利空桑・帆足万里・物集高世に師事、国学を修めるとともに、和歌を好んで詠んだ。幕末には、養子佐一郎に職を譲っていたが、隠居の身ながら「雇」として藩政とのつながりは保っていた。

明治維新により、万石未満の諸家は士族、その家臣はすべて農商(平民)とされた。立石領でも家臣七九名全員が帰農入籍した。

帰農後、正之は明治六年(一八七三)、立石天満宮祠官、七年、宇佐神宮権禰宜に任ぜられる。十三年、職を辞し帰村。

再び天満宮祠官となる。二十三年没。著作に歌集『槇の舎集』がある。

「槇の舎」は、自邸に植わっていた槇の大木にちなむ。「槇の葉」も同様であろう。

「槇の葉」は、慶応四年(明治元、一八六八)から死去前年の明治二十二年までの日記である。日常生活のみならず、維新期の変革の様子なども記している。家中に頼られ、時勢によく対処した様子が淡々と記録されている。

趣味である和歌の記述が多い。和歌を通じて、杵築の宗匠や領内の武士・町人、宇佐・橋津方面とのつながりを知ることができ、物集高見とひんばんに交流しており、杵築宗匠は物集高世と推定される。また、南画家の十市王洋ともつながりがあった。

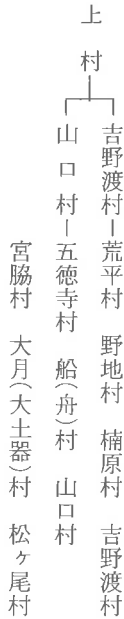
交易面からみれば、主要物資の購入は、高田・橋津方面で行っている。立石領は山間部にあり、年貢米・物資の積出し

は、立石峠を越え、向野から宇佐郡西屋敷を経て、島原領岩崎・和気の河岸を利用するなど、島原領との関係が深かつた(1)ことと一致する。

村方とのつき合いも多い。これは、和歌のほか、寺子屋や農業経営とも関係がある。安東氏は江戸期から農業に従事している。榎・麦・大豆・小豆・甘藷・茶・大根等を栽培し、養蚕も手がけていた。正之自身、手習子供を連れて作廻わりしている。秋から春にかけては、猪狩の記述が多い。

「榎の葉」には、多くの地名が出て来る。立石領八か村は、それぞれ幾つかの小村からなっており、さらに小名がある。小村以上をあげれば、つぎのとおりである。

(組) (村) (小村)



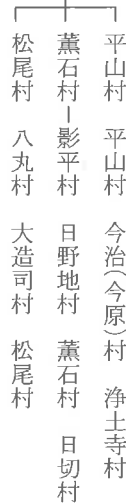
中村―中村―龍顔(龍ヶ尾)村 佛ヶ迫村

上尾崎村

下村

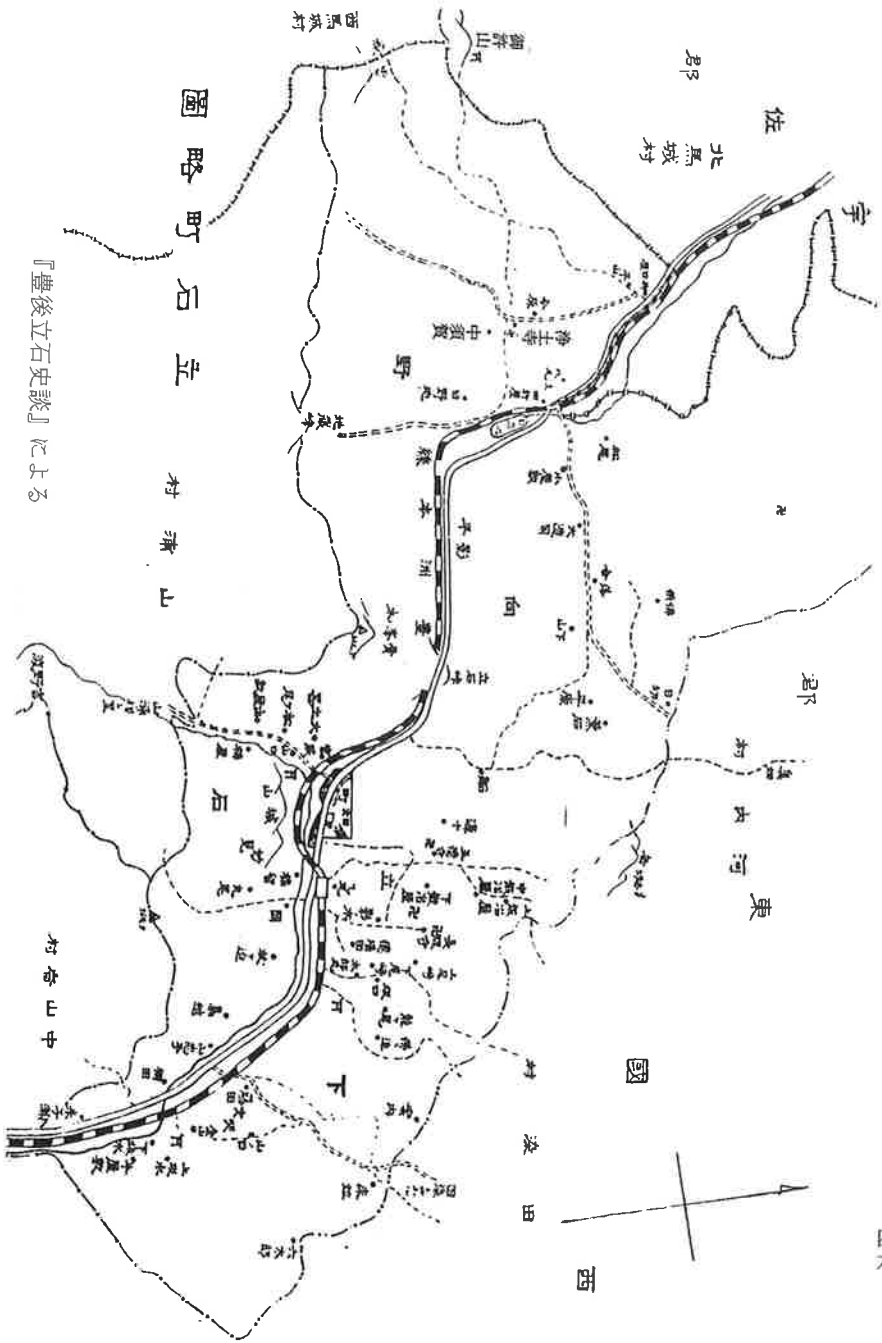


向野村



なお幕末には、中村は上村組に属していたようで、上村・下村・向野組の三手永となっている。(2)

立石領八か村は、維新後、日田県管轄となる。明治四年十一月十四日、改置府県により大分県に所属する。五年三月、大区小区制実施に伴い、吉野渡村を除く七か村は第二大区第十小区、吉野渡村は、旧日出領山浦村と二村で第十一小区を形成した。八年三月十三日、豊後大分県内では大規模な町村合併が行われた。米子瀬村と六太郎村を合併して下村、中村と山口村を合わせて立石村、平山・薰石・松尾村三村で向野



立石町略圖

山崎村

『豊後立石史談』による

村とした。吉野渡村は独立村のままであった。

十一年十一月施行の郡区町村編制法で、大区小区制は廃止され、町村の自治が復活するが、二十二年四月一日の町村制施行は、さらに大規模な町村合併をもたらした。立石・下・向野三か村で立石村(三十一年、立石町)、吉野渡は山浦と合併して山浦村となり、大・小区制下と全く同じ区域となる。以後、六七年間区画変更はなかったが、町村合併促進法下の昭和三十年三月三十一日、立石町・山香町・山浦村三か町村が合併して、現在の山香町が成立した。

なお、本稿では、膨大な史料のうち、明治元年の日常生活を中心に抄出した。四年末までの維新変革期の政治・社会体制に関する部分は、『史料館研究紀要』第四号(大分県立先哲史料館 一九九九)に紹介したので参照いただければ幸甚である。

註

(1) 『大分県史』近世篇Ⅱ(大分県 昭和六十年)

(2) 『豊後立石史談』(胡麻鶴岩八 歴史図書社 昭和五十二年)

復刻)

楨乃葉(抄) 慶應四とせとい布とし

真木舎

戊辰正月

(ママ)
○八月下旬明治与改元被仰出候

正月元日戌 天希よし

○ことし五十になりけれハよめる

はるくにおもひしとしもいつしかと

はやくもたちて老にけるかな

一、よみ始神典三の巻

一、書始によめる歌

大八嶋国の外にも天津日のてらさむかきり春ハ来ニけり

老ぬとてなけきしこともけ布はかりわすれていわ布春ハ

来ニけり

一、如御嘉例

君公天満宮并両寺ニ御参詣有之、男佐一郎正明、明六ッ時

出仕御供ニも罷出候

一、我家、如嘉例冷酒酌かはし、打いはひ候

正月二日亥 天気大寒

一、朝飯後天満宮江参詣致候、夫御用番山田氏方江年頭罷

越候

上江之年頭申述候、又夫より御輿

清雲院様江年頭参上、少々御風邪被爲入候由ニ而御逢無之、

御冷酒御次ニ而被下候

(虫損)

隱居同道也、夫御召使方江も年頭

罷越候、其外御家中荒々廻礼致候、昼前罷帰る

一、山浦野地村出入之者、例年之通打揃、昼前相見候、例之

通酒飯出ス、年米持参候

一、昼後、吉井隱居同道ニ而兩寺江御廟参致候、兩寺ニ而年

始として一盃出る、七ツ時過帰宅

正月三日子 天氣吉

一、昼前、忠實年頭ニ相見候、年玉一樽持参有之、冷酒差出

ス、岩屋源吾も相見候、年玉三^(ママ)戔持参、冷酒差出ス

正月四日丑 天氣吉

一、平山村富平年始ニ来る、橙持参、年始一盃為吞申候、御

足輕弥作参り合^レ付同様一杯出申候

一、鳥越隱居年始ニ相見候

正月五日寅 天氣吉

一、今朝飯後、一寸鉄炮師方江小筒直し有之罷越候、留守江

楠本寛兵衛為年賀、ろうそく七本持参候

一、昼後、大月山ニ猪入註進有之

上御出獵有之、小子も罷出候得共、景平方江拔有之、御

不獵也

正月六日卯 天氣吉

一、今日初會、兼題海邊鶴、衆議判早春梅夕鶯一題一景定

○今朝お民、三崎お八百殿同道ニ而年礼に廻る

正月七日辰 天氣吉、今晚氷結風立

一、夕刻、野口隱居被見候、引続お里越殿ニも年始ニ被見候

一、田染方江年始差遣ス、為年玉鏡餅二居、肴料^(和紙の名称)沓封、津

並沓束、午旁沓束也(中略)還之方ニも別条無之由、為年玉

鏡餅一居、肴料半切沓包、酒ノかす一重来る

一、家内事、昼後お御奥江年頭ニ罷出外、久子方江も罷出候

由也

一、御奥江半切七十枚、久子方江も同断、御奥兩人江煙草入

一ツ宛持参致候

一、佐一郎今朝雉子一羽打、其儘頂戴致候由也

一、今日、当帰洗^(薬草の一種)致候、家内事御奥ニ而御酒被下、暮時罷帰

り候

正月九日午 天氣曇、夕刻雪布る

一、昼前、日出表^レ使來る、鏡餅二居、串柿一連外ニはんゑりかけ、肴一すぼ來る、遐之方別条無之由也、則返書出ス、使之者江例之通一盃為呑候

一、昼後、家内事天満宮江參詣、夫^レ長流寺江佛參、年玉札三匁五分持參為致候、長流寺ニ而年始出候由ニ而暮時罷歸り候

正月十日未 天氣吉、風立

一、昼後^レ佐一郎同道ニ而山分邊鳩打ニ參り候、不獵也、尤佐一郎義者下村米子瀬邊罷越候、是も不獵也

正月十一日申 天氣吉

一、今朝者如嘉例、具足餅開祝儀、打寄相祝候、尤是迄、今日昼時、親類之向相招年始節會致來り候處、蔽數省略申合候ニ付今朝相招、冷酒取交し雜煮計差出候筈ニ申談候、其外一切差出不申候、昼時、手習子供其外參り候出入之者江者左様ニも相成り兼、一寸致候、酒飯差出候様手筈為致置候

一、今朝親類寄合、三崎不殘、桐田不殘、申合之通、冷酒午莠數之子志呂豆ニ而取遣致相濟而雜煮餅香の物也

一、昼時、手習子供、三嶋三郎桐田惇吉郎佐藤多門太亀井逸

女永井仙八長流寺村五市也、其外仙八親金右衛門五市親木又、右兩人共酒壺升豆腐五丁宛、元重村長藏町鉄次郎召呼候、鉄二郎鳩一羽持來り候、其外岡婆、裏婆、召呼候

一、鳥江村友藏午莠壺束持參ニ付膳為出候

正月十三日戌 天氣吉、夕方^レ雨布る

一、今日、三崎氏方年始ニ付申合之通雜煮冷酒也

一、今朝、杵築江年始遣ス、少略中ニ付鏡餅一居、津並壺束、肴料三匁、午莠壺束、田中江午莠壺束遣ス

一、宗匠方江年始書中差出ス、且又、丈長半切百枚年始為祝儀遣ス、少々詠置有之、詠草添削乞ニ遣ス、家内^レも少々遣ス

一、夜ニ入、杵築^レ下僕罷歸る、遐之方別条無之候、同方^レも為年玉、年玉一居、肴一すぼ、羊かん二ツ來る。田中^レ杯一ツ來る

遣ス

一、夜ニ入、杵築^レ下僕罷歸る、遐之方別条無之候、同方^レも為年玉、年玉一居、肴一すぼ、羊かん二ツ來る。田中^レ杯一ツ來る

二月朔日卯 天氣雨布る、暖氣

一、式日ニ付御奥江御礼參上、夫より御役方并近所江致廻礼外

二月六日申 天氣曇天、夜分少々雨布る

一、今日亡父忌日ニ付佛參可致候處、天氣惡敷、下男掃洒(ママ、洒掃)

齋米才為持為參候

二月七日酉 天氣吉

一、今日、向野山猪入註進有之、隱居中外御獵方并佐一郎、

都甲七郎江被仰付出獵致候處、平山奥畑ニ而小引三疋出候

處、親獵(ママ、猪)小猪疋疋ハ出道達ニ而程よく矢ニ合不申、いつ

連も遠間ニ而打損候、小猪疋匹犬疋疋ニ而喰留申候、其外

景平山ニ而大獵疋疋疋近出候得共、いつ連もよき矢ニ合不申、

不獵也、暮時過罷り帰り候

二月八日戌 天氣吉

一、昨日留守中ニ寛兵衛相見、浄土寺ニ有之候元こめ西洋筒

持參有之、今日いづれも致見分候、至極見事之品ニ相見申

候

二月九日亥 天氣吉

一、是性院福安院忌日ニ付長流寺江致佛參、夫ハ鳥越病人見

舞申候、練羊かん一包致持參候、昼後八ッ時前罷歸候

一、夕刻平山ハ御獵方罷出、平山江猪大小四疋付居候由註進

有之、明日狩被仰付候旨觸有之、尤隱居共其外兩三人被仰

付候

一、夜半頃、向野八丸平山江過日御竹山崩之名鉄炮差置候分、

四日市ハ与坎、大勢請取ニ參り候由ニ而過日之鉄炮取ニ參り

候由也

二月十日子 天氣雨布る

一、今日、雨天ニ付、猪狩見合也、夜分、後藤隱居相見候、

昼之内、野口隱居松尾氏被見候

二月十一日丑 天氣朝之内雨布り、追々晴、風立

一、昼前ハ向野平山猪入註進有之、隱居共江狩被仰付罷越候、

小猪疋疋出外得共垣ニかゝ里不申不獵也、暮時過罷歸り候

二月十二日寅 天氣吉

一、今日も隱居方、追々相見候

一、佐一郎義、今日御上京之御供被仰付候、尤御本家御上京

中御模様ニ寄、被仰遣候由也、御中小姓以上三人、御徒士

方拾人、御用人方与都甲氏御供之由也、都甲氏ハ承り違ニ

而未仰付由也

二月十三日卯 天氣小雨布る、夜分大雨

一、吉井隱居悦ニ相見候、都甲氏江四日市之始末承りニ參り

候、三崎氏江悦ニ參り候

一、夕刻、野口隠居被見候

二月十五日巳 天氣吉

一、今朝、^(虫損)□ツ時^ヲ向野邊猪狩被仰付、隠居共其外兩三人罷

越候、下山ニ者跡無之、御許山江登山、清光谷雨ヶ谷猪狩

致候處、小猪式疋出候、尤山浦獵師共も追々登山、一同ニ

相成り、小猪者山浦組疋疋打留候、他領組合ニ相成り、直

様山ニ而伐分、^(あし)疋疋足為持帰り候

二月十六日午 天氣吉

一、昼前、日野地榎山邊猪入註進有之、隠居共江狩被仰付罷

越候、跡見為致候處、追々拔有之、出不申候

二月十八日申 天氣朝之内曇、追々晴

一、今日、向野石ヶ谷猪狩、御家中一統御用連之向不殘、足

輕拾四五人程ニ而罷越候處、疋疋発し候得共出拔不申、兩

度迄発候得共同様ニ而矢ニ合不申候

二月廿三日丑 天氣吉

一、向野^ノ猪入註進、狩被仰付、いつ連も罷越候處、飛山ニ

而小引式疋出候得共、いつ連も打損^レ、夫^ノ三本松之小山

ニ又々子引入有之、親猪者七十余^(斤、脱カ)も有之、直様出候得共、

間近ニ而いつ連も打損、とれ不申、子猪も同断

一、今朝田染^ノ使來る、右者、久木家内、尤お民姉也、出產
後不快、昨夜^ノ一入不宜趣為知來る

一、当年之下男、あちこち武左衛門江頼、聞合候得共格好

之人物無之、漸山ノ口村常藏、此者先年御小人江出居、人

物も存居り候事故、召使可申段ニ而談致もらひ、未給金才

者定不申候得共、逆も高給取ニ者無之、其内並合も可有之

事故、今日^ノ召使候、是迄五郎七江者、毎夜一盃宛為吞

得共、最早、酒者が吞不申段ニ申置候

二月廿四日寅 天氣吉 今日彼岸入之由也

一、昼後、内迫畑見分ニ罷越候、夕刻後藤氏迄一寸見舞候

一、今日昼後、若人之向、兎狩參り候趣之處、佐一郎式疋打留

候由、外ニ疋疋犬とり候趣ニ而いつれも寄會候趣也

二月廿五日卯 天氣曇天

一、今日 天満宮ニ而例年之通神楽有之候

一、杖ヶ迫勇平相見、明日当り横灘江罷越候由ニ付一ノ出迄

手昏相認メ、立寄呉候様相頼候、右者頼置候ライフル出来

之有無問合申遣候

一、今日御達ニ而来月中旬、御乗船可被遊官仰出候由也

二月廿七日巳 天氣吉、昼前^ノ曇、夕刻^ノ風烈、宵之間少々

雨布る

一、都甲隠居被見候、久方振故、焼酎一盃差出申候

○杖ヶ迫勇平、灘^ノ夕刻罷帰^リ候處、返事ハ參不申口上ニ
而申来^リ候者、地金無之未出来不申、来月十日過ならずハ
出来兼候由申參^リ候、勇平方江子供ゆ着一ツ遣申候

一、昼前、豊前^ノ蝸木越前公治、宇佐^ノ佐藤又左衛門千英、

寺井福膳徳信相見候、右者此度、宇佐表^ニ而和学館取立度

趣^ニ而兩大宮司始として杵築宗匠請招^ニ罷越候由嘶有之、

天氣合^ニ付乍立^ニ而立別候、千英^ノ菓子致到来候

一、下男常藏、昨昼後^ノ暇遣、今朝罷帰^リ候筈之處、夜分^ニ

相成^リ罷帰^リ無處義^ニ而晚く相成候段、別人を以断申出候

二月廿八日午 天氣曇、昨夜^ノ殊之外風烈、夕刻^ノ雨布る

一、下男五郎七、金式分丈取替呉候様先日^ノ申出有之、今日

無據遣度旨申出候^ニ付、半左衛門方^ニ而臨時用札百匁致当

借、五拾六匁丈取替遣置候

二月廿九日未 天氣曇天

一、夕刻、杵築宗匠、庄吉案内^ニ而相見候、右者此度宇佐^ノ

招請^ニ而罷越候由、過日之三人御門外江相待居候由、小子

江^(マヤ)も操合出来不申哉之段被申聞候、いつ連節句後、罷越可

中段申答置候

二月廿日申 天氣曇天、風立

一、今日、田染江病人尋旁五郎七差遣ス、為見舞まんちゆう
七十遣ス、且又、書物借用致度^ニ付申出候處、いつ連も留
守^ニ而用濟不致候

一、昼後、若人之向兎狩罷越候^ニ付下邊江致同道候、不狘^ニ

老疋程と連申候

三月朔日酉 天氣吉

一、昨日承^リ候得者、江戸表^ノ御便有之 奥方様にも、先日

十五日当御発駕御下向之趣也、御本家御隠居様方御一同之

由也

一、今日飯後^ノ隠居共同道^ニ而山浦漁師共相雇^ヒ藤山跡見致

候處、昨夜之跡見出不申^ニ而影平方江相廻^リ子引跡有之、

浦山^ノ神ヶ尾犬引候得共出不申、夫^ノ跡見致、追々^(カ・虫損)つなき

廻、夕影^ニ及極ヶ迫^ノ三疋出候處、犬おこし^ニ無之高く出、

矢^ニ合不申不狘也

三月二日戌 天氣吉、夜^ニ入少々雨布る

一、町万屋^ノ為節句肴少々到来

三月三日亥 天氣雨布る

一、式日ニ付 御奥江御礼參上

清雲院様未御仕舞中ニ而御逢無之、夫より近所致廻禮候

一、夕刻、山田氏方江礼旁罷越候處、一盃出居り、其上嘶長く相成り候

一、今日、例之通山浦出入之者いつ連も參り候、尤久兵衛義者少く不快之由ニ而不參、例之通り酒飯出ス、船村増兵衛も相見同断

一、下村折藏方節句として酒肴、菱もち来る

一、宮尾源吾同茂節句も節句壱封到来、其外手習子供節句同断、

元重長藏節句も同断

三月四日子 天氣雨布る、昼後節句晴天、又々小雨布る

一、昼後節句宇佐表江罷越可申つもりにて支度才致候處、向野節句猪入註進有之由ニ而出獵申參り、宇佐行相止出獵致候處不獵也

一、家内事、夕刻節句金山市之丞方江兼而約束之由ニ而罷越候由也、尤亀井家内同道也

三月五日丑 天氣吉、昼後少々雨布る、風立

一、朝飯後節句潤吉郎并下男召連、昼前橋津正辰虫損方節句沾罷越候、

尤直様宇佐表江罷越候つもの處、正辰方江被止、明朝同道致候筈ニ而致止宿候

一、下男義者、正ゆ四升八合并煙草三丸為調為持、直様返候、尤正ゆ者五七替、煙草ハ是沾之品切候由ニ而大丸壱丸ニ付札九奴八分宛也

三月六日寅 天氣殊之外餘寒甚數風立、朝之内少々雪布る

一、朝飯後、正辰同道ニ而宇佐表江被越候、到津家江訪候處折節不在ニ付取次江申述置候、半紙百枚致持參候、福寿屋江も同断

一、八幡宮江致參詣候、夫節句学館之方江罷越宗匠江致面會候、其外衆中同断、他邦節句者四日市右田五左衛門氏致、蟻木八兵衛公盛也、其外者当社中也

一、昼飯者宗匠取扱有之、酒肴も同断、夫節句打寄り肩合之歌杯詠候、勝利也

一、暮時過、氏致同道ニ而千英江引取、止宿候、正辰公盛才者宿江引取申、潤吉郎者橋津之方江頼差返置候

三月七日卯 天氣吉

一、今日者、朝飯後節句於會所歌會席有之、出席人兩大宮司始当社中并他所社中也打交り、宗匠共ニ廿人也

三月八日辰 天氣吉

一、今日も昼後ハいつ連も同道ニ而学館江罷越候、昼後、宗匠神学指要少ク致口説候

一、夕刻ハ到津家江被招宗匠并千英同道ニ而罷出候、殊之外馳走有之、夜更テ罷帰候

三月九日巳 天氣曇、昼後ハ少し宛雨布る

一、朝飯後、宮成大宮司方江初ニ而罷越候、初ニ而之義ニ付半切百枚八匁ニ而調致、持参候、当主公矩江致面會、種々嘶ニ及、昼前学館江罷越候

一、今日者山邦邊之門人多ク相見居、雅談種々也、暮時福寿屋江歸る

三月十日午 天氣雨天

一、飯後ハ学館江罷越候、昼時過ハ神典講釈有之、書紀ニ而諸書清説を被解候、夜ニ入、福寿屋江罷歸り候

三月十一日未 天氣吉、追々曇、折々雨布る

一、飯後ハ学館江罷越候

三月十二日申 天氣吉

一、朝飯後宇佐出立、其前、宗匠始社中五六人見立（虫損）参り被具候、各送別之歌ニ相認メ持参也、夫ハ福寿屋方同

道ニ而罷出、八幡宮馬場先ニ而神拝致、夫ハ中嶋之桜追ク盛り也けれハ、いつ連も打詠、即詠之歌よミ具候、おの礼も詠候（後略）

一、右ニ而志はらく時うつり、つきぬ事ニ而立わかれ候、昼時前橋津本多与申候方江参着

三月十三日酉 天氣吉

一、昼前、宗茂正同道ニ而橋津江来る、昼後ハ花見相催候（カ・虫損）由候得共、宿元ハ下男一条之義申参り居、又々今日、迎五郎七参り候ニ付、昼後出立、七ツ時過（カ・虫損）無滞テ歸着致候、宿元別条無之候

一、今日橋津ニ而宗義送別

一、夜ニ入杵築ハ泰行信義公則高見同道ニ而宇佐方江罷越候由ニ而庄吉案内ニ而高見相見候、当時、御門内旅人六ヶ敷候ニ付早速、庄吉同道ニ而万屋江被引取申候

一、今日、橋津ニ而櫛こ多のつもりニ而正ゆ（カ）から廿五匁ニ而少ク調歸り候

三月十四日戌 天氣吉

一、今日、石ヶ谷野焼有之、自分山妨方下男江差ハ有之、出獵旁罷越候處、向野ハ猪入註進有之、罷越候得共拔有之、

不狝也

三月十六日子 天氣吉

一、今日者

過公、日出表江御忍駕籠ニ而日出被遊候由ニ而佐一郎杯御供江罷加候、尤御側徒士兩人御近習四人ニ而御出之由也

一、今日、平山邊ニ兼而より小猪付掛候由ニ而隱居共相催、出狝致候處、石ヶ谷江猪入註進有之、其方江罷越候處、抜有之不狝也

一、留守中江宇佐表⁶高見子被掃、參り被居候、宗匠⁶之手昏來る、別条者無之候

三月十七日丑 天氣吉

一、高見子昼前出立ニ而罷掃候

一、夕刻七ツ時過

過公、日出表⁶御掃被遊候由、佐一郎杯、御供ニ而罷掃候

一、野口氏⁶大根種子并当年之大小到來、外ニ兼而相頼置候

黒元結調被具候、尤代料式朱之内、拾式文ぬけ之由申來る

三月十八日寅 天氣雨布る

一、金山市之丞⁶佐一郎上京、餞別として肴致到來候

三月十九日卯 天氣吉

一、朝飯後、三重氏并都甲氏方江不沙汰見舞ニ參り候

一、今朝、橋津江正ゆ志る調ニ下僕差遣、拾^(貫)目為調候、代料廿五匁也、

三月廿日辰 天氣雨布る、雷鳴有之、川水出る

一、今早朝、櫛屋奥廬山土かひニ下男初之事故、召連罷越候、追々雨布り出ス

一、井尻左中子⁶大根種子并元結一把到來、亀井定吉⁶大根た根并縫針到來

三月廿一日巳 天氣吉 朝飯後四ツ時前地震ス

一、下男常藏給金之義、未何ほと、員數取極ハ無之候得共、^(カ・虫損)無據義有之由ニ而武左衛門を以三両式分丈取替具候様申出

外ニ付、出店⁶三両式分丈致借用、右之内三両丈夜ニ入相

渡候處、夜分暇具候様申出、宿元江罷掃り候

三月廿三日未 天氣雨天、昼後⁶晴

一、大宮司兩家⁶拙方江一樽致到來候

一、夕刻

奥方様日出表江御着岸被遊候由、いつ連も出仕ニ而夫々取計候由也

三月廿四日申 天氣吉、夜分少々雨布る

一、今日朝、平山江猪入註進有之、隱居共其外少人数ニ而罷越、神尾ニ而都合子猪五疋起候得共、尅疋も矢ニ合不申、其内尅番大猪、山中浦山ニ入有之、同方_レ家屋之方江申参リ候由ニ而、いつ連も参り居り候處、銘々跡見致参り合、山首ニ而後藤隱居初矢、夫_レ好三打殺し、三番目小子打留申候、夫_レ直様罷歸り候

一、夕七ツ半時頃

奥方様御着被遊候、其節笹藪前ニ吉井野口隱居同様相並ひ、

御待受申上候、夫_レ

御隱宅様江恐悦参上

三月二十五日酉 天氣吉

一、今朝 奥方様御下着

上江之恐悦、御用番山田氏帖申述置候

一、先達而_レ少々胸痛差癢り候ニ付、忠實子ニ診察相頼候處、

今日参り被呉候、折節、幸次子ニも相見、一盃寄會候處ニ

昨日御供ニ而致下着廣瀬氏并尻氏相見、二三杯宛差出候

一、此度罷下り候定府罷在候内田熊太郎、工藤寅吉相見候

三月廿六日戌 天氣吉、夜分少々雨布る

一、今日、綾部宗竹老相見、シッテン致呉候、夫_レ庭内桜満開ニ付猪肉を以、夕景迄花見いたし、わかれのうた、ちとよミ申候

一、昼前、日出表_レ使来る、右者佐一郎出立悦として大(虫損)到来、則返書出ス

一、昼後、田染_レも使来る、同様乗船祝儀として樽肴料百疋宛来る、尚又、栗野殿_レ酒壺樽式升来る、端書ニお民弟栗

太、当分書物為詠度、相頼度候段申来る、遣候様申遣候

一、今日 御首途出として、天満宮并両寺江御礼参御佛参被遊候

一、家内事、昼後 御隱居宅様江

奥方様御下向の恐悦ニ罷出候

三月廿八日子 天氣折々雨布る

一、今日、社祭り致候ニ付神主岩尾茂参り、靈祭之祝詞誦呉候、例年之通、杖ヶ迫勇平召呼其外三崎江、杵築、田染_レ之来客婦人へ、手習子供不残、弥作、惣五郎、岡婆々、武左衛門江も参り候様申聞置候得共、出郷之由ニ而不相見、右相仕舞、三崎氏野口喜一郎其外も相見候

一、橋津ニ而正ゆ老斗六合為調候、五匁三分替ニ而古松園ハ通才致来り候

三月卅日寅 天氣吉

一、飯後、隱居共申合、向野方角江致出獵候、平山并景平江

も猪入有之ニ付、日野地ハ註進申遣候、昼前迄相待、景平

名塔山小猪狩候處、墓の尾ト野首ニ出、野口隱居并桐田好

三打損申候、夫ハ平山之方江參り候處、大小忒疋出候趣、

大猪ハ飛山之方、小猪豊前山之方をさし候趣ニ候得共、出

切り不申、夕景ニ及、引取申候、不獵也

一、今日者、家内共も景平山江わらひ取ニ參り申也

四月朔日卯 天氣吉

一、式日ニ付 御隱宅様江当日御礼參也、夫ハ近所江致廻礼候

四月三日巳 天氣吉

一、夕刻葉茶少々持參り、老匁五分宛ニ而六升三合調候

四月八日戌 天氣晴、風立

一、今日者向野ハ猪入註進有之、出獵被仰付、いつ連も罷越、

大小忒疋とれ候由也、小子に者齒痛ニ付不參候、大之方三

重氏矢先之由也、小之方者犬の功名之由也

一、夕刻、所々ハ葉茶持參り、五斗計調申候、矢張老匁五分替也

一、齒痛夕刻大分腫氣有之、自分療治ニ而針致候、うミ血出

候處、痛輕く相成り大分致休息候

一、昼頃、下村ハお勢い相見、酒封五十疋到来致候

四月九日亥 天氣吉

一、昨夕之葉茶、家内共并裏門千葉相雇ひ、今朝迄ニよりの致申候

一、今日者千葉召連、自分茶園ニつミニ參り候、留守者小子

并お民ニ而製し上致候

一、今日五郎七加勢ニ參り、影平山ニ下男同道ニ而山取罷越

候

一、今日、葉茶自分園ニ而老斗余り有之、外ニ四斗程買入致

申候

四月十日子 天氣吉

一、昼後、大月山ニ猪入有之候由、野口隱居中帰致、一寸參

候様被申ニ付參り候處、松か尾平ニぬけ有之、其内雨布り出、

罷歸り候

一、今日も五郎七加勢致、大月畑打ニ參り候

四月十一日丑 天氣朝之内小雨布り追々晴天、昼後大降

一、飯後、三重氏方江一寸見舞罷越候

一、今日昼前^レ家内女子供召連、山浦島ノ江友藏方江茶つミニ参り候處、追々大降ニ相成り夕刻七ツ時頃罷歸り候

一、宗匠事、今日者橋津^レ当方江被参候筈之日繰ニ付、忠實幸次寄合相待候處、右之大降ニ相成り、相見不申、夕刻田楽ニ而一盃差出し歌よミ申候

四月十二日寅 天氣曇天

一、朝飯後宗匠相見候、全体昨日申契り置候通、町万屋沾被見候由、今日者是非共被罷歸候由ニ而殊之外取急、甚残念之事共也、乍去、昼後^レ被歸候事故、古史傳不審才少々承ル、昼一杯差出候、飯後、鳥越沾見送り申候

四月十三日卯 天氣吉、不順ニ寒し

一、今日、当年之葉茶製上致候、拾壹斤余り出来申候、昨年残り茶六斤余り有之

一、今日下男家内参り、大月畑之す□□引致候

四月十四日辰 天氣不順ニ寒し、霜降る

一、今日も下男家内参り居、大月畑へ遣候

四月十五日巳 天氣吉

一、今日も下男家内参り居候

一、今日、景平山薪取寄せ、船村増兵衛、同金右衛門世倅仙八、山口村長兵衛、長流寺村喜間太加勢致呉候、都合ニ而百九拾把取寄せ申候

一、今日、上平江猪入註進有之、出獵被仰付、自分も参り候、上平山拔有之、藤山江入有之、狩候得共出不申候

四月十六日午 天氣吉

一、今日も下男家内参り居候

一、今日、家根棟卷、五徳寺村新兵衛外ニ一人参候
四月廿四日寅 天氣吉

一、今朝、金山江焼酎式升徳り二ツ為持、取ニ遣し申候

一、昼時分より十王堂江参り候、最早、藤者不残散果候、今日之人数宿方不残、内田熊太郎、後藤貞一郎、都甲七郎、松尾寿吉、綾部崇竹、亀井定吉、塩屋半左衛門、同茂十郎、三崎^レ八百子、其外子供四人、町三吉、福市、其外下邨圭也、暮時過罷歸り候

四月廿五日卯 天氣曇、昼後^レ雨布り夜^レ大降

一、去ル十七日、江戸表^レ詰人数留守居才込、不残引拂、品

川⁶船^ニ而兵庫^ニ而乗替、高田浦江着船之由^ニ而帰着候由也

子方江参着

一、朝飯後、野口氏吉井氏方江下着悦并悔も有之、一寸見舞申候

壬四月六日丑 天氣朝之内曇、昼後⁶晴る

四月廿六日辰 天氣雨天

一、朝飯會所^ニ而相仕舞、四ツ時前宇佐打立、橋津江立寄り

一、昼後、廣小路野口氏被見候、兼而相頼置候橋津⁶之煙管

一、朝飯會所^ニ而相仕舞、四ツ時前宇佐打立、橋津江立寄り
昼支度致候處、山邦長野宗義辻阿部國之相見、共^ニ昼飯致也、しはらく相嘶、夫⁶打立七ツ時帰宅致候、宿許別条無

調被呉候

之候、宗義國之も橋津川込連立、川^ニ而相別れ候

四月廿九日未 天氣吉

一、今日、向野平山熊ヶ谷池^ニ鮒つり^ニ栗太潤吉郎召連参り候、不狛也

一、留守中^ニ杵築宗匠⁶兼而相頼置候四書一部代金老尙式朱、每朝神拜式折本二本老冊四百文宛、通前^ニ而送り來り候、

候、不狛也

右之四書一部神拜式老冊者、山家常道神職岩尾叶枝⁶之被頼、残り神拜式老冊ハ岩尾源吉⁶之被頼也

一、留守中^ニ杵築⁶高見子相見候、宗匠⁶手帟來る^(カ・虫損)

壬四月九日辰 天氣雨布り、昼後⁶晴る

閏四月朔日申 天氣吉

一、式日^ニ付、御奥江当日御礼参上、夫⁶近所致廻礼候

一、今日、船、長流寺手習子⁶振舞として、昨日鯛式枚送り有之、今日、うとん堺重一ツ宛、酒貳升、竹の子才持参り、

一、宗匠⁶被頼^ニ付、今日⁶宇佐方江龍越^レ付^ニ付此段、御用番

夕刻参り候而為吞申候

三重氏方江相届置候

一、今日⁶作麦刈方致候

一、裏御門番増田太兵衛娘千葉、步入物有之、右請金出来不

一、今日、向野飛山^ニ猪入註進有之、狩被仰付、昼時⁶罷越

申^ニ付、御雇取^二第^(次)、持参り候筈^ニ而、百拾五匁丈取替呉

候得共拔有之哉、出不申候

候様精々申出^ニ付、漸時取替遣置候

壬四月十一日午 天氣雨布る、昼後⁶雨止、夜分又々布る

一、昼飯仕舞二第、高見子同道^ニ而打立、七ツ時前橋津正房

一、杵築宗匠⁶手帟來る、先日差出候書中、昨日相達候趣^ニ

而返書也、未上京義も王洋子当り者、見合可申由被申、相
決兼候段申来る、字佐千英行書中頼来る、則、添書致万屋
江差出置申候

壬四月十三日申 天氣吉

一、夕刻⁶字佐千英⁶之返書来る、高見子^ニ者去ル十日字佐
出立致候由也、いつ連橋津山邦邊遲滞与被存候、夜^ニ入、
下邊沾川狩参り見候得共不獵也

壬四月十六日亥 天氣吉

一、先達而別府朝見方江森⁶家内姉被参居、一寸、家内江参
り候様申参り居候得共、丁度蚕時分^ニ而引逃かたく、今日
早朝立^ニ而一寸参り申候、惣五郎兼而入湯致度趣^ニ付同人を
召連申候、当年者、未年始使も遣不申^ニ付肴料酒料五拾疋
宛遣申候

一、夕刻、物集高見子字佐⁶引取候由^ニ而被参候、(中略)最
早、夕刻^ニ相及候間止宿申進候

壬四月十七日子 天氣少々曇、夕刻⁶少々雨布る。

一、高見子今日者被帰候^ニ付、宗匠行手帚才相認候、此度上
京被致^レ外^ニ付首途為祝儀、金貳百疋進申候

一、四ツ時、高見子出立被致候

一、今朝都甲氏被参候

壬四月十八日丑 天氣雨布る

一、今朝、蚕夏子の蝶出申候、雄三十六、雌十六也

壬四月十九日寅 天氣雨布る、いよ^く五月雨となる、終日

大降

一、今朝蚕夏子出仕舞、男六、女老り也

一、裏門千葉事、雨天^ニ付仕事も無候、今朝罷帰候

一、夕刻野口隠居被見候、焼酎少々出ス

一、下男常藏単物調度由申出、金壹分取替遣候由、都合^ニ而
金三兩壹分給金之内取替也

四月廿一日辰 天氣雨、かつ^く晴

一、下男常藏今日一日暇遣候、尤家内眼病之由也、○野口隠
居楠原隠居被見候

壬四月廿二日巳 天氣雨布り折々雷鳴、河々満水之由也

一、野地幸之丞相見候、昼支度為致候

一、忠實子詠草持参有之候

壬四月廿四日未 天氣朝⁶昼沾かつ^く晴、昼後⁶又々雨
(虫損)
布る

一、忠實朝之内相見、朝飯才仕舞昼前沾ともに歌なとよ^ミ候

一、今日も、たつ子相履、蚕糸とり候

一、夜四ツ時、家内事、灘の罷帰り候、少々足痛者致候趣ニ候得共、先無難也、森其外一ノ出朝見いつ方も別条無之候

由、一ノ出朝見共、去ル十日兩人共上京致候由也

一、森愛子未迎ひ參不申、滞留之由也

壬四月廿六日酉 天氣雨布る

一、今朝、下男罷帰り候

一、昼後、廣小路野口氏不快を見舞、夫の山田、都甲兩氏見

舞申候

一、朝之内、後藤氏被見候、楠原隠居被見候

壬四月廿七日戌、天氣朝之内雨布る、追々晴、又々昼前の大

二布る

一、朝之内忠實相見候、家内風邪并小子足痛見もらひ申候

壬四月廿八日亥 天氣朝之内小雨布り、かつく晴、暮前の

大降

一、昼前の佐一郎、栗太同道ニ而川狩罷越、はへ大分獵有之

一、家内風邪、すぎと無之ニ付△服藥六貼、鳥越ニもらひ申

候、小子足痛膝点致もらひ申候

壬四月廿九日子 天氣雨布り

一、野口隠居并松尾氏塩半も相見候

五月朔日丑 天氣大降

一、菅神江例年当月參籠致来り候ニ付、今日參籠致候、尤家

内共不残、手習子供召連候、其外歌友都甲氏、松尾幸次、

綾部忠實相誘被參候、都甲氏の酒三升持參、綾部氏飴包

被惠候、町藤屋国の饅頭(ママ)一体到来致候、昼弁当の夕刻一盃

煮染才持參致候、夜ニ入罷帰り候

一、今日百度參り、嫁并下女千葉其外子供ニ而相勤被具候、

○夕刻亀井隠居も被見候

一、今日、金山市之丞豊前の罷帰り候趣ニ而干うとん并海老

干物少々致到来候、夜分天満宮の罷帰り候處、市之丞參り

居、豊前方漸有之、いつ方も金つまり之由也、少々才覺致、

持帰り候由、尤楠原方江遣置候由也

五月二日寅 天氣今日も雨布る、昼前の晴

一、今日昼前の晴る

一、御藏の飯米を俵請取候由也

△今日家内服藥六貼もらひ申候、尤昼後、惇吉郎遣し申候

一、小子膝点ハよほとよく應申候

一、夕刻、杵築カ高見子相見候、宗匠カ手帛来る

五月三日卯 天氣晴 ○夕刻忠實子見舞具候、尤、家内乳之

下少々痛有之、見貫ひ度申遣置候ニ而也

一、朝飯後、高見出立、宇佐方江被參候、同方福寿屋千英江
書中差遣候
(カ・虫損)

五月四日辰 天氣昨夜カ雨布る

一、昼後田染カ使来る、不音見舞之由ニ而鰻并川魚焼物致到
来候、惣而別条無之由也

五月五日巳 天氣かつく晴る、追々降出ス

一、節句ニ付 御隠宅様江御礼參上、夫カ一二軒廻礼致候、
雨布りカニ付罷歸り候

一、三重氏杉原氏被見候由也

一、昨夕、町福市方カ為節句、海老少々致到来候 ○手習子
供カ祝儀到来候

五月六日午 天氣雨布る

一、是性院名日(ママ)ニ付下男佛參為致候、尤齋米為持候

一、下男常藏、今日一日暇遣申候 ○今日昼後カ家内事、近
所江不沙汰見舞カ參り、夕刻罷歸り候

五月七日未 天氣晴る 夕刻夕立気色ニ而少々雨降る

一、夕刻手習子供召連、作廻り參り候、序(ママ)ニ釣リ參れ申候、
不獵也

五月八日申 天氣可也晴る、夜分ニハ少しそは布る

一、当年唐芋つる、日野地村徳三郎江頼置、昨日可也畑拵出
来ニ付、今早朝とりニ遣、持歸り候

一、今日唐いもつるさし致候、昼後カ下男家内も參り申候、

唐いもさしをへて、胡麻少々植付候由也

五月九日酉 天氣吉

一、今日カ大豆植掛り申候 ○昨日、桐田カすっほん一ツ致
到来、今日料理致候

五月十日戌 天氣曇、飯後少々布りそめ候、かつく晴、又
々夕刻カ布る

一、今日も大豆植候ニ付、見分作廻り致候 ○後藤隠居、此
頃別府方江參り候、由ニ而今日被罷歸、相見候

五月十一日亥 天氣昨夜カ雨布る

一、今日、緞先掛ケニ山家股井村拵、下男常藏參り致歸り候、
札拾六匁五分ニ而出来之由也

五月十二日子 天氣飯後拵大布り、志者らく小布りニ而又々

終日大布り

一、今朝、忠實子相見候、家内乳の痛見もらひ候、夫⁶朝飯差出候、志者らく歌よミ申候、月下泉^与い布題^ニ而一首宛よミ申候

五月十三日丑 天氣雨天、半夏生

一、昼後忠實子相見、家内胸痛シッテン致吳候、早^而例之歌よむ、近^々御母堂様御出被為在候段、為知来候^ニ付被帰候
一、追^而 御入有之、今日者直様隠居江御入也、御茶差上ル、暫く御物語有之、御帰被遊候

一、今朝より栗太子少^々不快、昼時素読致、夫⁶打臥罷在候

五月十四日寅 天氣かつ者れかつ布る

一、今昼後、家内 御隠宅様参上、尤昨日御沙汰も有之^ニ付而也

五月十七日巳 天氣曇、折々雨布りミる

一、今日、下男家内参り、大豆植仕舞候

一、夜分忠實相見候、暫く歌談致候

五月廿日申 天氣晴

一、朝之内、忠實子相見、歌相談有之

一、今日も下男家内滞留

一、明日 上^ニ而御歌會御催有之由^ニ而、先日御題頂戴致居

り候、右^ニ付、忠實幸次相談有之、且又、井尻佐中奥付相勤居り、御相伴被仰付、此度⁶相始候趣^ニ而頼^ニ被見候

一、今日小豆植付致候、種子小豆無之、在方^ニ而漸く尅升調申候、左候處、塩屋出店⁶尅升送り吳候

五月廿一日酉 天氣吉、昼前⁶又々雨布る

一、今日 上^ニ而御歌會被遊候由^ニ付忠題通題之歌有之候、家内も同様也、出詠之向皆被見相談有之候

一、今朝、下男家内罷帰り候

五月廿三日亥 天氣吉

一、今朝、惣五郎相雇、田口沾染物取^ニ遣し候、昼後罷帰り候

一、今日、下男江例年之休息為致候、例之通り冷麦為致候、

三郎、惇吉郎朶取致^下ニ付夕飯振舞致候

五月廿六日寅 天氣吉大暑

一、今早朝立^ニ而佐一郎并栗太同道^ニ而田染川江川獺^ニ参り候
一、今日 上^ニ而御歌會之由^ニ付三題之兼詠忠實江相託し候

五月廿七日卯 天氣吉

一、昨日、内迫粟畑すきかへし致申候、尤同村嘉八江相頼候

由、今日^レ^レ畑拵ニ差掛り趣ニ而、昨夜下男家内呼ニ罷帰り、
今早朝^レ参り居り候

一、夜五ツ時過、佐一郎、栗太田染^レ罷帰候、亀三百匁位老

枚、小鰻十余り持帰り候

一、昼後、野口隠居被見候

五月廿八日辰 天氣夕刻少々雷鳴ニ而少々夕立

一、昨日粟畑拵出来之由ニ而、早朝^レ下男夫婦連ニ而植方ニ参
り候、夕刻植仕舞候(カ・虫損)

五月廿九日巳 天氣吉、昼前^レ少々雷鳴、昼後夕立雨布る

一、今日、蚕夏子糸とり申候、当年者出来悪敷、糸存分ニ無
之也

五月卅日午 天氣風立涼し、今日^レ暑入

一、桐田氏、昨日郷川江川狩参り候由ニ而、うなぎ拾本余り

持参致候間、うなぎめし致、寄會申候

六月朔日未 天氣吉、大暑、昼後雷鳴、大ニ夕立

一、式日ニ付 御隠宅様江御礼参、且夫^レ役人中方江当日并暑

中見舞参り候

一、今日 上御歌會日ニ付三題之歌差出ス、尤忠實子江例之

通相託候

六月二日申 天氣吉、大暑

一、暑入三日目ニ付

上御機嫌伺、御用番三重氏站申達置候 御隠宅様御機嫌伺

参上致候

一、今日、追々暑氣見舞人々被見候

六月三日酉 天氣吉、大暑

一、町福市^レ暑氣見舞ニ而海老一皿到来、尤同人少々留飲之
由、灸点致呉候様申出差遣候

一、御隠宅様^レ家内方江、暑中ニ付御着被下置候、又家内^レ丸
す飯献上致候

一、当年者土を成也、櫛木継交致候ニ付、御足輕糸永茂八義

兩日拝借小頭江相願、明日^レ繼掛可申、手当致候

六月四日戌 天氣吉、大暑

一、今朝、飯後^レ櫛継ニ罷越候、櫛屋奥江参り候得共、当年
ハ更実なり、不申繼穗無之ニ付松ヶ尾江参り、上ノ畑大木

之分繼終、昼後^レ内迫ニ而繼穗致候

一、今日、家内御隠宅様江暑氣御氣嫌伺江罷上り候由也

六月五日亥 天氣吉、大暑

一、今日者茂八、何か差支出来之由ニ而昼後、參り候ニ付、内
追上ノ畑繼仕舞ニ致候

六月六日子 天氣吉、大暑

一、今日者、朝飯後、櫛屋奥大岸、下之分見分之上、大木拾

本余り繼替申し候、先当年ハ今日仕舞ニ致候

一、一昨日、穂ヶヶ致、今日者面部よほとはれ申候

六月七日丑 天氣大暑

一、昨日、昼前、少々腹痛致居、夜半頃、殊之外痛強ク大ニ

吐シ、首痛、付田原氏江申遣候、夜半後參り薬用いたし

候、時下当り之由也、今曉、痛止申候、今朝も見舞具、薬

致候、家内事も昨日当り候由ニ而薬用致候、兩人共薬三貼

宛もらひ申候、昨夜一貼也

一、佐一郎義も少々時日当り之由ニ而、昨日者打臥、罷在候

得共、今日者出勤致候

一、今日、松ヶ尾畑江少々大根蒔遣申候

六月八日寅 天氣大暑

一、早朝、春塘老見舞具候、もはや、よほとよろしく付得共、

今日者為用心致薬用候、家内も同断、三貼宛もらひ申候

一、野口氏快方之由ニ而出勤致候由ニ而、被見候、井尻氏雅

談ニ被見候、岩尾源吾神事ニ付參り候、昼支度為致候

一、下男家内、今朝罷歸り候

六月九日卯 天氣大暑

一、今日、是性院福安院名日ニ付、參詣可致候處、少々不快

ニ付代參下男為參候

一、今日も源吾相見、宗匠之祝詞有之、右を写とり申候

一、昼後、下男常藏、金毘羅宮祭り之由ニ而罷歸り候

六月十日辰 天氣大暑、夕刻者らくくと雨布る

一、今朝栗太罷歸り候、追々同方祭り有之候由也、傳言申遣

候

一、三重氏、先日、少々時日当り之由承り、今朝一寸見舞致

候

六月十一日巳 天氣大暑、昼後少々夕立雨布りそむる、雷鳴

も少しなる

一、夕刻、忠實久武相見候、尤今日者 上御歌會ニ付而也

○杵築宗匠方江手帟出ス、尤山邦宗義も手帟来る、別条

なし、宗匠行之手帟も頼来る、一同ニ遣ス

六月十二日午 天氣大暑、夕方夕立雨布る、よき間也

一、昨日差出候杵築行罷歸り、宮嶋も返書来る、宗匠も同断、先達而上京之筈之處、上より神社佛体才之取調、且学館ニ而講釈才被仰付候由、御扶持方も式人扶持与やら被下候由ニ而、上京御差留ニ相成り候由、於宗匠者甚残念之由申来り候(中略)山邦行宇佐行手番頼候、高見も書中来る

一、神主岩尾源吾うなき致到来候、見事之もの有之

一、山邦方江之書中、万屋沾出し候

一、御召使亀尾方家内沾、暑氣見舞として玉子并菓子少々

致到来候

一、楠本方見舞として菓子到来候、不音之手番も来る

六月十三日未 天氣曇、四ツ時前折々雨布る

一、飯後、山田氏沾不沙汰見舞致候

一、忠實久武両氏相見候段、申来る、直様罷歸り雅談致候、

後藤隠居も被見候、昼後傳八相見候、上方之嘶承り候、新

聞書三冊持参、借用致候

一、夜ニ入、忠實子相見、夜半頃沾歌よミ申候

六月十五日酉 天氣昼前少々雷鳴して後、昼後大ニ夕立雨

布る、晴て又夕方夕立

一、今朝都甲氏被見候

一、下男家内、三四日前中暑之由ニ而不快ニ付、昨夜も下男

罷歸り、今日も昼後罷歸り度由申出、病氣之事故聞置く

(ママ)候

六月十六日戌 天氣吉

一、昼後忠實子相見、夕刻久武子も相見、今日 上御歌會ニ

而雅談ニ及候、序ニうたよミ申候

六月十七日亥 天氣今暁大分夕立雨布る

一、お民事、里方祭り之由、尤当年ハ未一度も歩行不申候、

今早朝立ニ而罷越候、本家隠居方江少々宛、肴料并菓子一

箱宛遣申候、家内何か外ニ少々遣候由也

一、先達而中借用致居候古史傳、此度差返候、又々跡別本

借呉候様申遣候、夫々手番差遣候

一、天満宮前川之束橋、東之欄か舞昨日日落候由、甚い布かし

き事也

一、夕刻、下男田染罷歸り候、昨夜不快ニ而有之、甚氣

遣居候處、先方ニ而薬才もらひ、薬用致候由也、小徳り焼

酎一ツ、伊勢海老二ツ致到来候

一、夕刻都甲氏本燈歌之事ニ付被見候

六月十八日子 天氣吉、今日節替り立秋也

一、三重氏後藤氏方江不沙汰見舞罷越候

一、今日_レ立秋也○昼後、鳥越隠居見舞被見候

六月十九日丑 天氣吉

一、佐一郎儀、此度日出表江罷越、調練稽古致候様被仰付候

由、尤後藤貞一郎、内田熊太郎、右三人明日_レ罷越候由

一、今朝、櫛見分ニ罷越候

六月廿一日卯 天氣吉

一、昨日、東屋豊吉相見、明日木付江罷越候由ニ付、宗匠沾

一寸手橋差遣呉候様相頼置候

一、昼前杵築_レ高見子相見候、宗匠_レも書中来る、別条無之

一、今日 上ハ歌會之由ニ而、夕刻久武子相見候ニ付出詠相

頼候

一、今朝都甲氏相見、奉燈うた之事とも咄有之、追_レニ同氏

隠居も相見候、咄ニ焼酎など出申候

六月廿二日辰 天氣殊之外暑し、夜ニ入、少_レ雨布る

一、今朝忠實子相見候、飯後久武幸次子相見候、昼後野口大

人_ニも被見候、雅談ニ及、深更退散、夕刻一盃差出候、至

極面白く有之候

一、昼時、下男計田染_レ罷歸り、お民事、夜ニ入三嶋家内同

道ニ而罷歸り候、栗太子も被參候

一、昨夕_レ下男迎ニ遣置候、こんにやく二十遣申候、今晚帖

少_レ致到来候

六月廿三日巳 天氣甚涼し○此夏田染_レ古語拾遣一、神皇實

録一、職原抄二、借用致候

一、天満宮奉燈歌認、其外雅事ニ而都甲氏其外連中、飯後_レ

被見候、歌仙ハ久武子相認候

一、昼後_レ高見子、宇佐表之方江出立被致候

六月廿四日午 天氣吉、朝夕冷氣

一、今日昼後沾ニ歌仙出来致候、久武子書終候

一、夜ニ入、家内一同同道ニ而菅神江致參詣候

○夜ニ入、日野地村兼太郎菓子持參候

○夕刻下男家内參り候

六月廿五日未 天氣吉

一、向野出入者之内、松平、義七祭りニ相見候

一、今日、松ヶ尾、内迫櫛継穂おひ為取申候、尤未少者芽出

兼候_(マ)のもの有之由、櫛屋奥者明日当り遣見可申也

六月廿六日申 天氣昼後_レ少_レ雨布る

一、今日 上御歌會ニ付、うたたてまつる

一、今朝、三重氏、一寸見舞候

六月廿七日酉 天氣終日潤雨有之

一、今日潤雨有之、昼後野口隠居被見候、夕刻忠實子相見候

六月廿八日戌 天氣(記載ナシ)

一、早朝、忠實家内相見候

一、今日、下男家内罷歸り候、尤祭り前が参り居、少々不快

ニ而今日、沾滞留致候

一、明早朝立ニ而宇佐宮江忠實同道ニ而参詣之旨申談候

一、今朝、御用番三重氏方江宇佐表、沾三、四日罷越候段、届

申達置候

一、夕刻、廣小路野口氏、沾罷越候、尤今朝 御隠宅様江御機

嫌伺参上、夫が近所頼ニ参り候

一、明日、下男高田江塩調ニ遣候旨也

六月廿九日亥 天氣折々雨布る

一、朝、正六ツ時、忠實子相見候、同道ニ而出立、途中井手

光ニ而少々雨布る、朝五ツ時過、橋津春の舎主をと布らひ、

別条なし、咄ニ沈り昼飯相仕舞、八ツ時過同所出立、七ツ

時頃宇佐江参着、藤園主をと布らひ厄介ニ相成申候、尤橋

津健吉同道致候、宮参可致之處、雨布り出、見合申、追々

高見子も相見候

一、今日者悖吉郎召連候○下僕常蔵、今日高田江塩調ニ遣候

ニ付、田口沾召連、少々之荷物為持候

一、夕飯之時分一盃出相仕舞、いつ連も同道ニ而宮参致候、

尤御飯屋也、雨天故軟参詣人多分引とり趣也

一、菓子一箱、但式朱折、藤園ニ土産ニ遣ス

七月朔日子 天氣甚うむす

一、今日

八幡大神御還御、夕八ツ時過が拜礼ス、殊之外群参也

一、当家縁家先之人々夫々来る、其外別条無之

七月二日丑 天氣夕刻大ニ夕立雨布る

一、昼後、高見子相見、追々歌物語り議論致候

七月三日寅 天氣吉、大暑、夕刻夕立

一、朝飯後宇佐出立、橋津正吉主と布ら布、夕刻、長野宗義、

友岡正才相見候、岡實義ハ今日沾暇故、夕立晴間を見て、

暮時前出立引取、われハ何分雨なる故、滞留致候、追々歌

物語才致候、夜分沾雑話致候

一、今日宇佐ニ而飴貳百匁調、尤三匁六分宛一包、当家江土産致候

一、綾部氏ニ者今日迄之御暇ニ付夕刻時前出立被致候

七月四日卯 天氣朝之内少々夕立、追々晴て殊ニ暑し、夜分又々雨布る

一、今早朝帰宅可致心得ニ而早天起出、茶漬才仕舞候得共、夕立気色ニ而少々雨布り出候ニ付見合居、四ツ時頃迄見合候、晴立候ニ付為用意傘沓本、札拾匁ニ而相調、橋津立出申候、途中殊之外残暑強く、昼前四軒屋楠本方迄罷帰り、余り暑く候ニ付暫時休息致候内、山浦神官佐藤加賀守相見外ニ付志者らく嘶致候、夫又々思立、八ツ時帰宅致候、別条無之

一、今日、四軒屋ニ而飴沓包、四匁ニ而調申罷帰り候上、子供江少々宛遣申候

七月五日辰 天氣大暑

一、朝之内、忠實子相見候
一、昼後、三重氏江罷帰り候段、届旁罷越候
一、今日、野口氏江橋津相頼候眼金代三步、煙管代銀廿匁五分の勘定致候、尤金沓両者江戸表江為差登有之候ニ付、

今日銀五匁五分、分札ニ而拾匁八分勘定、外ニ黒元結代貳朱、今日一同ニ勘定致候、尤眼金ハ同氏自分用を無理ニ所

望致候

一、七月六日巳 天氣暑

一、今日大根まき致候ニ付、下男家内昨夜ニ呼ニ参り居り候
一、今日杖ヶ迫畳屋仲四郎参り、隠居畳五枚裏返致候
一、昼後、幸次、忠實、久武子才相見候、半左衛門も相見候、外三子追々 上之御歌會ニ付被引取候、半左衛門御用申談有之、居残り外ニ付焼酎差出ス
一、上御會相濟、夜四ツ時前野口氏被見候、太政官日誌十五十六之巻被為見候、其前後藤隠居、好三才咄ニ相見候
七月七日午 天氣朝之内曇り追々晴る、昼後夕立

一、式日ニ付 御隠宅様江御祝儀参上、夫より近所式三軒相廻り申候

一、昼後、忠實子相見候、夕刻久武子も相見候、歌語りス〇

下男家内、昼後罷帰り候
一、今日、昼迄ニ大根まき仕舞候
七月八日未 天氣風立、残暑強
一、昼後、野口隠士相見候

一、今日幸右衛門相見、正ゆ仕込致候、当年者、小麦大豆ニ
而六斗丈仕込候、夕飯之時分一杯差出申候

七月九日申 天氣吉

一、是性院精月ニ付、早朝、潤吉郎召連寺參致候、野菜料持
參致候

一、夕刻、杵築宗匠おの之手番、東屋豊吉持參り候、別条無之、
橋津宇佐行手番頼來り候

七月十日酉 天氣吉、朝冷氣

一、杵築宮嶋孝順院初盆ニ付、今日燈籠料五十疋、蠟燭代壹
朱ニ封為持、下男差遣候、宗匠江も中元ニ付金百疋着料遣
ス、其外油番才調候様申付遣候

一、夜ニ入、杵築おの下男罷歸り候、いつ連もも返書來る

一、深更ニ日出表おの佐一郎も罷歸り候由也

一、於長流寺、例年之通施我鬼有之、致參詣候、且又、例之
通墓洒掃為致候

一、長流寺(ママ、回カ)各向料札五匁、延隆寺江三匁同断、尤延隆寺江
も墓一ツ有之ニ付洒掃致候、四ツ時相仕舞歸宅也

七月十三日子 天氣曇、昼前少々雨布る

一、例年之通佛飭才致候

一、夕刻、墓所火燈し下男差遣候

七月十四日丑 天氣朝夕冷氣甚し、昼後おの雨少々ふり出し、
夜分布る

一、長流寺延隆寺共、和尚上人小僧召連、棚経ニ相見候、例
年之通茶ノ子差出ス、右挨拶として、布施物持參、佐一郎
佛參致候、和尚(ママ)式(ママ)、小僧江壹(ママ)匁宛

一、今日、例年佛參致來り候處、雨布り出候ニ付無其義、夕
刻下男火燃遣置候

七月十五日寅 天氣雨布り、冷氣甚し、夜分雨見る

一、御隠宅様江当日之御機嫌伺參上、夫おの三重氏三嶋桐田江
位牌參致候

一、野口隱居(り)并お里を殿ニも佛前江參り被與候

一、長流寺吾市祝儀持參致候

一、夕刻、町万屋おまつ相見候、肴堅魚節持參候

七月十六日卯 天氣吉、別条なし

七月十七日辰 天氣曇、昼前後雨者らくくと布る

一、裏門外、猪太郎おの飯米壹斗丈、新穀出来込取替與候様先
日おの申出有之、今日取替遣置候

一、今日おの佐一郎、日出表江又々罷越候、外人員も先日通り

同道之由也

一、日出宮崎氏江巾着三ツ遣申候

一、上坂水村庄屋新六、短冊沢山持參、認呉候様頼出候、短冊預り置候

七月十八日巳 天氣西北風強し

一、内迫菜畑江少々むし出来候ニ付、見分ニ早朝下男召連、

罷越候

一、今日、裏門太平家内万、加勢ニ參り大豆草とり為致候

七月十九日午 天氣今日も風模様也

一、昼後家内 御隠宅様江御礼ニ參上、尤一昨日御肴被下有之、今日巾着老ッ献上致候趣也

七月廿日未 天氣吉

一、昼後忠實子相見、暫らく歌物りす

一、昼後、下男家内參り候、内迫大豆草とり遣候○夕刻、都

甲重治相見候

七月廿一日申 天氣吉、朝冷氣

一、今日も下男家内、大豆畑ニ遣候

七月廿二日酉 天氣吉、朝冷氣

一、景平猪ノ字山江、猪入注進有之由ニ而出獵被仰付罷越候、

小猪老疋出候得共、好三打損候、不獵也、其外極ヶ迫ニ而も老疋出候得共不獵也

一、今朝塩屋又市相見、豊前半田^カ被頼候由ニ而、短冊五枚

認呉候様申出候、短冊預り置候、菓子一包致到来候

一、下男家内昼後^カ罷歸り候○夕刻忠實子相見候

七月廿三日戌 天氣雨布る、但ッ小雨なり

一、朝飯後、山田氏野口氏江一寸見舞罷越候

一、夜分都甲氏被見、豊前奉燈歌誤有之候、詠草預り置候

七月廿四日亥 天氣吉

一、夕刻景平堂之上山江猪入注進有之罷越候、大物老疋出候得共矢ニ合不申、残念ニ而夜ニ入罷歸り候

一、夕飯後、都甲氏野口氏被見、豊前奉燈之歌談有之、夜半

ニ被引取候○今朝者忠實子も相見、昼後重治子も相見候、

いつ連も奉燈歌談也

七月廿五日子 天氣雨布る

一、歌談ニ付重治久武子相見候

七月廿六日丑 天氣吉

一、豊前奉燈歌ニ付諸人相見候○今日者 上御歌會之由ニ而

三題歌差出申候

一、山邦宗義^ノ書中來る、奉燈一条頼來り候

一、都甲重治子方姉、不幸有之由也

七月廿七日寅 天氣吉

一、夜四ツ時頃、日出表^ノ内田氏被帰候、佐一郎貞一郎銀三

郎三人ハ杵築表江罷越候由、明後日当罷帰り可申趣也、同

方調練見物致帰り候趣也、荷物者今日持帰り候由

一、今朝飯後、野口隠居と布らひ申候、後藤氏先日^ノ不快之

趣^ニ付見舞可申心得^ニ而罷出候處、今日ハ大分快方之由^ニ而

出仕途中^ニ而出會申候

一、御藏屋敷都甲氏江不幸有之、七ツ時^ノ下男遣呉候様申參

り差遣候

一、飯後、後藤氏、都甲氏悔旁見舞^ニ罷越候

一、一昨日夕方^ノ龍ヶ尾村源治母、下男常藏家内母也、洗た

く旁参り居り候

一、夕方下男家内、あせ布耆荷自分山^ノ取参り候、明日通り

(は) (き)
者た記拵置候筈也

七月廿九日辰 天氣吉

一、今日、高田江調置候塩、廿一玉之内四玉とり^ニ下男差遣

ス、序^ニ少々買物致候、夕刻罷帰り候、跡塩拾四玉を式俵

^ニ致置、残る三玉其儘^ニ預ヶ置候由也

一、夜五ツ時過頃、佐一郎杵築^ノ罷帰り候、別条無之候